

エリア発

少子高齢化で人材確保がますます厳しくなる中、独自の取り組みで成果を挙げている地域建設会社がある。宇都宮市で左官業を営む英和技研は、社員16人の小規模企業ながら、年間に数多くの出前授業を実施。工業高校とのパイプを築くことで、毎年安定した採用実績を挙げている。鈴木隆之社長は「左官業は人が商品。人材を確保しさらにシエアを広げたい」と意気込む。

英和技研



英和技研の気合いの入ったポスター

独自の哲学で人材採用に成果

鈴木社長が出前授業を始めたのは2016年のこと。今市工業高校（栃木県日光市）から「伝統技法を学ぶ授業ができないか」と声を掛けられたのがきっかけだった。好評を受け翌年には規模を拡大し、工業高校に出向く形で開催。元請あり17年以降、平均で年1・75人の応募が来るようになった。だが技能者の採用状況は全国的にも好転の兆しが見えず、供給元となってきた工業高校自体も応募者の減少に苦しんでいる。今市工業高校も統廃合が決まっている。

「中学校の出前授業は出前授業に同行させた事務担当の女性社員が提案したからできた」と鈴木社長は明かす。この女性社員が母校に働き掛けて出前授業が実現。これまでの積み重ねが次の一手につながる好循環を生んでいる。

木社長は、工業高校だけでなく中学校や小学校にも出前授業の輪を広げ、左官業の魅力を知ってもらう取り組みを始めている。小学校では親世代の建設業への印象を変えようと、児童の親にも壁塗りを体験してもらった。

「栃木県内で20代の左官職人は片手で数えるくらいしかない」という厳しい現状を前に「人が減っていくのはもう変えようがない。職人がいなくなるこ

●英和技研

- 所在地＝宇都宮市幕田383の1
- 電話＝028・616・3825
- ホームページ＝<https://eiwagiken.jp/>
- 施工実績＝宇都宮ビッグ・ビー宮みらい、獨協医科大学日光医療センター、東邦銀行・第一生共同ビル、栃木文化芸術館、日光宝物館、佐野市庁舎、足利赤十字病院、山喜荘、栃木県庁議会議事堂など多数。

を前提に建設業の将来を考へなくてはいけない」と指摘。だが「左官の仕事がなくなることはない。逆に考えれば自分たち(若手職人)の付加価値はどんどん上がっていく」と逆転の発想を打ち出す。「経営者自身がマインドを変えないと生き残れない」と強調する。